

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!

★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!

☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

## 史料ネット News Letter

第65号 2011年4月11日(月)

発行：歴史資料ネットワーク

### 2011年3月発生 東日本大震災緊急特別号



津波被害を受けた福島県新地町の状況（ふくしま歴史資料保存ネットワーク撮影）

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）とそれにとמוなう津波により、岩手・宮城・福島・茨城など多くの地域で甚大な被害が発生しました。不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆さまにお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆さまに対し、深くお悔やみを申し上げます。被災地では、今なお余震や原発事故の影響などにより不安な生活を強いられている方々もたいへん多い状況です。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

この大震災に際して歴史資料ネットワークでは、緊急の事務局体制で各地の情報収集・支援募金の呼びかけ等をおこなっています。4月7日現在、のべ264名、合計2,668,500円の募金が集まっています。皆さまの温かいご協力に心より感謝申し上げます。活動報告・支援金の使用状況は随時ご報告させていただきます。なお、支援募金は継続中です。今後ともご協力いただけましたら幸甚の至ります。

## 歴史資料ネットワークの動向

|       |                                                                                                                                                                                                         |       |                                                                                                                                                                |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月11日 | ◆臨時運営委員会<br>緊急事務局体制への移行、災害対応基金の使用、各方面との連絡、カンパ募集について協議                                                                                                                                                   | 3月27日 | 宮城ネット<br>メールニュース第98号発信<br>山形ネット<br>ブログ立ち上げ ( <a href="http://yamagatabunkaisan.cocolog-nifty.com/blog/">http://yamagatabunkaisan.cocolog-nifty.com/blog/</a> ) |
| 3月13日 | ◆臨時運営委員会<br>現地活動の方針、盗難・廃棄への注意喚起の必要、早急なカンパ依頼実施について協議                                                                                                                                                     | 3月28日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡、会計処理                                                                                                                                    |
| 3月14日 | 事務局<br>各地史料ネット・被災地各機関との連絡、各自治体・各資料保存機関の被災情報収集                                                                                                                                                           | 3月29日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡、運営委員のボランティア保険加入<br>宮城ネット<br>メールニュース第99号発信<br>山形ネット<br>ブログ上で各地の史料ネット情報紹介<br>ふくしまネット<br>ブログ上で中通りの文化財等被害状況、会津民俗館の被災状況、会津の被害状況について発信        |
| 3月15日 | 事務局<br>カンパ呼びかけの作成、各地史料ネット・各機関との連絡、被災情報収集<br>宮城ネット<br>メールニュース第94号配信                                                                                                                                      | 3月30日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡<br>新潟ネット<br>ホームページ上で新潟県内の歴史資料等の状況発信<br>ふくしまネット<br>文化財等の避難所確保について依頼                                                                      |
| 3月16日 | 事務局<br>被災情報収集、メールニュース配信、関係学会への連絡、宮城ネットへ支援金15万円送金<br>ふくしまネット<br>緊急ブログ開設<br>( <a href="http://blog.ap.teacup.com/fukushimanet/">http://blog.ap.teacup.com/fukushimanet/</a> )                             | 3月31日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡<br>山形ネット<br>ブログ上で文化庁文化財レスキュー事業に関する情報発信                                                                                                  |
| 3月17日 | 事務局<br>被災情報収集、各地報道機関への連絡、関係学会へのカンパ募集協力依頼、web上で閲覧できる阪神・淡路大震災被災自治体に関する情報一覧作成<br>宮城ネット<br>メールニュース第95号配信、事務局移転<br>新潟ネット<br>ホームページ上でカンパ募集開始、各県の被害状況発信                                                        | 4月1日  | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡<br>新潟ネット<br>ホームページ上で各県の被害状況発信                                                                                                           |
| 3月18日 | 事務局<br>各機関への連絡、被災情報収集<br>ふくしまネット<br>ブログ上でメール機能復旧に関する情報発信                                                                                                                                                | 4月2日  | 山形ネット<br>ブログ上で山形ネット通信第14号および文化財レスキュー事業に関する情報発信                                                                                                                 |
| 3月19日 | 新潟ネット<br>ホームページ上で各県の被害情報発信<br>ふくしまネット<br>文化財関係被害に関する情報提供依頼を発信                                                                                                                                           | 4月3日  | 山形ネット<br>ブログ上で3/26の県内文化財関係者の集会に関するレポート発信                                                                                                                       |
| 3月20日 | ふくしまネット<br>ブログ上で南相馬市の状況について情報発信                                                                                                                                                                         | 4月4日  | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡<br>宮城ネット<br>レスキュー活動（石巻市）                                                                                                                |
| 3月21日 | 事務局<br>会員有志により史料ネット英語版ブログ立ち上げ<br>( <a href="http://rekishishiryonet.wordpress.com">http://rekishishiryonet.wordpress.com</a> )<br>宮城ネット<br>メールニュース第96号配信<br>ふくしまネット<br>ブログ上で浜通りの被害状況および「屋内避難地区」について情報発信 | 4月5日  | 事務局<br>被災情報収集<br>山形ネット<br>ブログ上で米沢市内の文化財被害情報を発信                                                                                                                 |
| 3月22日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡<br>ふくしまネット<br>ブログ上で地域資料の保全に関する呼びかけ発信                                                                                                                                             | 4月6日  | ◆臨時運営委員会<br>各地の動向、各地史料ネット・関係機関との連携について協議、支援強化の方針を確認<br>事務局<br>被災情報収集、会計処理                                                                                      |
| 3月23日 | ◆臨時運営委員会<br>各地の動向、各地史料ネット・関係機関との連携について協議<br>事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡、会計処理<br>ふくしまネット<br>福島県教育庁文化財課と被災資料保全に関する協議                                                                                           | 4月7日  | 事務局<br>被災情報収集、会計処理、ニュースレター65号編集作業<br>宮城ネット<br>メールニュース第100号発信【本誌掲載】<br>山形ネット<br>ブログ上で4/7宮城県沖を震源とする余震について発信                                                      |
| 3月24日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡、会計処理、宮城ネットへ支援金20万円および通信機器を送付<br>ふくしまネット<br>ブログ上で南相馬市・いわき市に関する情報発信                                                                                                                | 4月8日  | 事務局<br>被災情報収集、会計処理、ニュースレター65号編集作業                                                                                                                              |
| 3月25日 | 事務局<br>被災情報収集、関係機関との連絡、会計処理<br>ふくしまネット<br>ブログ上で福島県教育庁文化財課からの被災文化財保全に関する通知文を発信                                                                                                                           | 4月9日  | 歴史関係学会拡大協議会@東京<br>歴史学関係者の対応につき協議、運営委員の出席                                                                                                                       |
| 3月26日 | 宮城ネット<br>メールニュース第97号発信<br>山形ネット<br>山形県内文化財関係者の集会開催                                                                                                                                                      |       |                                                                                                                                                                |

## 歴史資料ネットワーク事務局収集情報一覧

ブログにて公開中 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34357955.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34357955.html)

### ■ 東日本大震災各地の状況まとめ

- ・青森県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34380987.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34380987.html) 【4/4更新】
- ・岩手県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34377277.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34377277.html) 【4/7更新】
- ・宮城県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34381043.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34381043.html) 【4/8更新】
- ・山形県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34377049.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34377049.html) 【4/7更新】
- ・福島県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34376999.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34376999.html) 【4/4更新】
- ・関東(群馬、千葉、栃木) [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34378342.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34378342.html) 【4/5更新】
- ・茨城県 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34450334.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34450334.html) 【4/3更新】

### ■ 長野県北部「3.12」地震情報(長野県、新潟県)【4/3更新】

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34363172.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34363172.html)

### ■ 静岡県東部を震源とする地震(静岡県、山梨県)

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34369030.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34369030.html)

### ■ 東北地方太平洋沖地震被災地域の皆さまへ 歴史資料保全についてのお願い

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34373323.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34373323.html)

### ■ おうちの思い出・まちの記憶を残すために～アルバムや写真の保全～

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34407950.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34407950.html)

### ■ 被災資料保全活動への支援募金のお願い

- ・歴史資料ネットワーク [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34368814.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34368814.html)
- ・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク <http://www.miyagi-shiryounet.org/>
- ・新潟歴史資料救済ネットワーク <http://hysed.human.niigata-u.ac.jp/rescue/>
- ・新潟の状況まとめ・新潟ネット募金依頼 [http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34373140.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34373140.html)

### ■ 各地の史料(資料)ネット

- ・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク <http://www.miyagi-shiryounet.org/>
- ・山形文化遺産防災ネットワーク <http://yamagatabunkaisan.cocolog-nifty.com/blog/>
- ・ふくしま歴史資料保存ネットワーク <http://blog.ap.teacup.com/fukushimanet/>
- ・首都圏地域資料情報ネットワーク <http://d.hatena.ne.jp/yunraai/>
- ・千葉県文化財救済ネットワーク  
[事務局 〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2(千葉県立中央博物館内) 電話:043-265-3111]
- ・新潟歴史資料救済ネットワーク <http://hysed.human.niigata-u.ac.jp/rescue/>

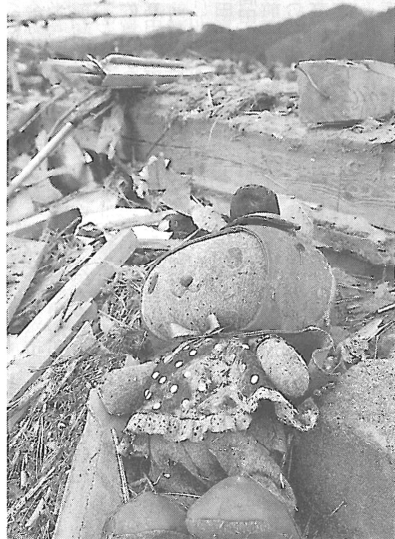
### ■ その他の情報

- ・rekishishiryonet(英語版ブログ) 渡辺悦子さんの作成【4/7更新】  
<http://rekishishiryonet.wordpress.com/>
- ・WEB上の阪神・淡路大震災の自治体関連情報  
[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net/34375413.html](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net/34375413.html)

## うちの思い出、まちの記憶を残すために

東日本大震災の被災地では、地震・津波による被害のため、多くの人命・家財が失われました。しかし、家族の思い出、まちの記憶を残そうとする取り組みが広がりつつあります。がれき撤去の際、家族のアルバムや卒業証書、位牌などが、水に濡れたり泥にまみれた状態で見つかった場合、廃棄せずに保管し所蔵者に返却しようとする自治体・ボランティア団体の活動が、新聞やテレビなどでも報道されています。

こうしたなか史料ネットもブログのなかで水に濡れた写真の応急処置方法について紹介するとともに、『朝日新聞』3月30日付けに取材記事が掲載されました。少しでも家族の思い出、まちの記憶を残すためご参考いただければ幸いです。



泥にまみれたぬいぐるみ＝15日、岩手県陸前高田市、日吉健吾撮影

## 思い出の品 捨てないで

大津波は一瞬にして家を押し流した。人々のくらしを刻んだ品々も。家族のアルバムや日記帳、位牌、ぬいぐるみ……。倒壊家屋の撤去作業が始まった被災地で、がれきの中から見つかった思い出の品々の多くは水にぬれ、泥にまみれている。どう残せばいいのかわからない。

### アルバム・日記・位牌

「家族や友人、故人との思い出が詰まった品を手放さないで」。こう話すのは、2004年の新潟豪雨水害や中越地震の被災地で復興ボランティアをしたNPO法人「ディー・コレクティブ」(山形市)の遠藤正則理事だ。

遠藤さんは、生活が落ち着いた後になって、家族の思い出の品が何一つ残っていないことを悔やむ被災者をたくさん見てきた。被災者は、家の片づけを手伝う人から「捨てる、捨てない」の判断を迫られると、あきらめて捨てることを選んでしまいがちだという。

09年の兵庫県佐用町の水害で、水没文書などの保存に携わった「歴史資料ネットワーク」(事務局・神戸大学大学院)の松下正和副代表は「まず陰干して乾燥

## 立ち直る 支えに

### ぬれたPCやデジカメ 復旧も

パソコンやデジカメなど、水没した電子機器に保存していたデータも復旧の手だてがある。「被災の状態にもよるし、時間との勝負だが、水没しても被災から30日から40日はごらな、専門家に託せばデータを取り出せる可能性がある」と、文書修復家の坂本勇さん(63)は言う。

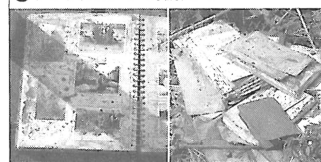
大切なのは、水没した電子機器の電源を絶対に入れないこと。ぬれた状態で起動させると、基板の回路がショートしたり、誤作動で突然、データ消去の機能が働いたりする。

### 起動・乾燥は厳禁 速やかに専門家に

坂本さんは、専門家のボランティアを中心に「デジタル救護所(仮称)」を設け、各地の避難所などでデータ復旧の相談、対応ができる態勢づくりを急いでいる。

### 思い出のアルバムを残すには 歴史資料ネットワークなどによる

- ① 汚れていても捨てない
- ② 陰干して、乾かす。無理に開かない
- ③ 外側や表面のシートに付いた乾いた泥をハケなどで落とす
- ④ 表面のシート越しにウエットティッシュなどでそっとふく
- ⑤ デジタルカメラで撮影する



で紹介している。①20〜30度ぐらいのぬるま湯につける②プリント表面を傷つけないように洗浄し、ゆっくり台紙からはがす③ほこりのつかない場所にする④乾燥させる――が一般的な手順だ。「写真の状態にもよるので電話(03・5786・1712)で問い合わせてほしい」という。

傷みが激しく、現物そのものを残すのが難しいこともある。松下山さんは、そんな場合でも、デジタルカメラで現物を撮影して複製を残しておく方法を勧める。「立派なカメラがなかったら、携帯電話のカメラ機能を使ってもいい。思い出を大切に」とのこと。

## 東日本大震災 被災地より (その 1)

## 石巻市街地・雄勝町・北上町

宮城資料ネット事務局の佐藤大介です。本メールニュースも 100 号となりました。90 号を過ぎたあたりから、記念の 100 号をどのような内容にしようか事務局で話し合っていました。その 100 号は、3 月 11 日に発生した大地震における歴史資料レスキューの被災地レポートとなりました。支援者の方に車を御提供いただき、4 月 4 日に石巻市街地、同市雄勝町、同市北上町の三ヶ所を、今回初めての現地視察として事務局 4 名で訪れました。

## ■ 大津波に耐えた土蔵－石巻市街地・4 月 4 日

4 月 4 日は、未曾有の津波被害を受けた地域の一つである、宮城県石巻市の視察でした。

三陸自動車道を東に向かい、矢本パーキングエリアを過ぎると、徐々に水田への浸水や、津波で流されたがれきや車が見え始めました。石巻河北インターチェンジを降りると、道路には津波による砂の跡が残されています。市街中心部に近づくにつれ、道路の両側には津波を受け廃棄される生活道具が、うずたかく積み上げられるようになります。石巻市中心部は、つぶれた家屋や自動車、津波でえぐり取られたアスファルト舗装、なぎ倒された電柱や信号機で、車のすれ違いが難しくなる状況でした。しかし、市街地はまだ建物の形は残っています。石巻市街地のシンボルである日和山から海岸線までの一体は、文字通りがれきの山になってしまっていました。

石巻市街地では、地元の郷土史サークルの方から救援要請のあった H 家を訪問しました。同家の主屋は大津波で押しつぶされてしまいましたが、数年前に耐震補強をされたという 2 階建ての土蔵は、押し流された数軒の家屋を食い止め、奇跡的に倒壊を免れていました。1 階は浸水しましたが、



砂に記された「SOS」の文字 (石巻市街地)



がれきを受け止めた土蔵 (石巻市街地)

2階部分は浸水もなく、古文書などはほとんど無傷の状態で保管されていました。これらの資料はレスキューを行い、東北歴史博物館に一時保管する方向で対応することとなりました。

## ■ 消えた街・消滅した資料―雄勝町・北上町

4日午後には、市街地から北上して石巻市雄勝町と北上町に向かいました。両町では、合併前の北上町史編さん事業などで保全した数家の古文書資料の現状確認を行うことにしていました。

雄勝町へは、まず石巻市河北町を經由し、北上川（追波川）の堤防上に作られた道路を通って新北上大橋まで進んでいきます。堤防に上がってしばらく進むと、ヨシ原が津波でなぎ倒され、押し流された船が見え始めます。松の木の大木は、河口にあった防砂林のものでしょうか。その後、新北上大橋に近づくとも風景は一変していました。津波が南岸の堤防を完全に破壊し、その側の住宅や建造物は倒壊していました。水面すれすれに設けられた仮設道路は、満潮の時間帯が近かったこともあって、路肩が水に浸っています。さらに、新北上大橋は北側4分の1程が押し流され、数百メートル上流にトラスの残骸が落ちていました。



建物に乗り上げた観光バス（石巻市雄勝町）

雄勝町市街地の被害はさらに壊滅的なものでした。学校や公民館など数棟を除き、建造物は跡形もなく消えていました。3階建ての観光施設だった建物の上に観光バスが乗り上げている、などという光景を目にすると、全く想像していませんでした。時折行き交う緊急車両のほかは人影もほとんどありませんでした。

同町のN家は、戦国末期以来の地域有力者で、2000年から5年間の北上町史編さん事業で1万2千点あまりの古文書を整理・撮影しました。津波でえぐられた波打ち際の道路を進んでたどり着いた、そのN家の江戸時代に立てられた主屋と土蔵は、礎石を残して跡形もなく消滅していました。そのような状況であろうことは、事前の航空写真などの情報で把握してはいました。



津波で消えたN家の蔵（左）と被災前の姿（右・2007年4月撮影）

一方、先ほどのH家の状況もあり、わずかな可能性に期待してもしました。しかし、現実には広がる光景はそれを容赦なく打ち砕くものでした。それでも、なんとか一点でも資料を見つけたいと、がれきの中を必死に探し続けたのでした。

新北上大橋が落橋したため、北上川北岸の北上町へは一旦上流まで戻って川を渡ります。北上町も、橋より東側の地域は壊滅的な被害を受けていました。同町のK家の資料は、同町総合支所の方からの紹介で2年前に保全活動を行いました。津波で失われました。時間の関係ですべては今回は確認できませんでしたが、北上町史編さん事業の際に整理・撮影した他の古文書も、厳しい状況にあることは確実です。さらに、総合支所庁舎で保存されていた町史編さん時に収集した史料のデータベースを保管したサーバも、10メートルを超える津波に襲われた庁舎ごと失われてしまったとのことでした。

私事を記すことをお許しいただきたいのですが、私が宮城県で初めて本格的な自治体史編さん事業に参加したのが北上町史でした。事業では、今回訪れた北上町と雄勝町の所蔵者方で、所蔵者や地元の方々と協同でデジタル技術を活用した史料保全活動が行われ、調査成果の還元を常に行いながら編さんが進められました。ここで培われた保全活動のスタイルは、2003年に発足した宮城資料ネットによる「宮城方式」の原点の一つでもあります。その地域の史料のほとんどが消滅したという事実は、私自身にとっては人生の一部をもぎ取られてしまったのと同じです。それだけではなく、資料ネットにとっても原点となった地域の歴史資料の多くが、この大震災で永遠に失われてしまったのでした。

## ■ 関係者の無事・残されたデジタルデータ

今回訪れた各地では、幸いなことに所蔵者や関係者の方々は全員御無事でした。所蔵者の方々は、全員が被災後一ヶ月近くたつ現在でも避難生活をされています。困難な状況にあることは想像に難くありませんが、訪問した私たちを快く迎えてくださり、再開を喜び合うことができました。

また、雄勝町と北上町の所蔵者の方々からは、震災前に私たちがデジタル撮影を行っていたことに対する感謝のお言葉もいただきました。「史料は無くなってしまったが、その前にきちんと撮影しておいてもらってよかった」、「落ち着いたら、先生たちが保管しているデータをぜひ提供してほしい」。

私たちはこの8年間、行政や市民の方々と協同で、全力で活動にとりくんできました。それでも今回の大震災までに、今回被災地となった地域のすべてをカバーすることはできませんでした。しかし、今回のケースでは、仙台にあるデータは震災を免れました。そのデータは、やがては所蔵者や地域へとお返しすることになります。なぜ「災害「前」の保全活動」を行わなければならなかったのか、これからの活動にどのような意義があるのか、悲しい経験を通じて、私たちも改めて認識することになりました。

震災後、いまこの瞬間も刻一刻と史料は失われつつあります。そのような史料を一点でも保全し、記録化してゆく。私たちは今回の経験を乗り越え、着実に活動を進めていこうと考えております。引き続きの御支援と御協力を、心よりお願い申し上げます。

### ＜事務局・連絡先＞

特定非営利活動法人 宮城歴史資料保全ネットワーク

電話・FAX 080-1666-5919（代表・臨時）

メール office@miyagi-shiryounet.org ホームページ <http://www.miyagi-shiryounet.org>

※ 宮城歴史資料保全ネットワークの了承を得て転載させていただきました。

## はじめに

2011年3月11日2時46分に発生した東北関東大震災において、茨城県内では、震度6強の揺れを観測した。長く激しい横揺れや直後に起こった津波は、大きな被害を県内各地にもたらしている。ここでは私が体験した震災時の混乱と、それ以来刻々と変化していった県内の状況とを時系列で追いつつ、歴史資料救済への動きと判明した被災地の現状とをレポートしたい。

当然のことながら、個人の集めた情報には限界があり、事実誤認も多々あると思われるが、それは後日訂正していただくとして、とにかく速報として体験と実見に基づく情報をまとめておく。

## 1、今日までの状況—体験記的に—

地震発生当時、私は茨城大学水戸キャンパスにある人文棟3階にある自分の研究室で、学生の指導にあたっていた。激しく長い横揺れにより、書棚の本が舞い散るように落下し、たちまちその中に埋もれた。教職員と学生は、ただちに校庭に避難したが、余震が度々あり、すぐに校舎内立ち入り禁止の処置がとられた。翌日に控えていた後期入試の中止が早々に発表された。

携帯電話は全くつながらず、地震発生から2時間後、学外に出ると、煉瓦塀や石塀があちこちで崩れ、コンビニのレジには長蛇の列ができていた。ガソリンスタンドはすでに売切れ、瓦が落ちた家屋も目につく。信号が消えて国道は全く車が動かない状態で、JRも地震発生時から全線不通となった。県外から来ていた多くの人が水戸市内で駅や避難所となった公共施設に身を寄せ、あるいは歩いて県外を目指したという。

那珂川は、河口から10キロほどさかのぼる茨城大学の北側の千歳橋付近で、逆流がみられたという証言がある。地震発生から30分後、県内の沿海地域では津波が発生し、大きな被害を出していた。

水戸市の南に接する笠間市にある私の自宅では、地震発生直後、停電となり、まもなく水道も停まった。乾電池式のラジオはもっていない。バッテリー残量を気にしながら、携帯電話のワンセグでテレビを見るだけで、情報が入らない。翌日もライフラインは断たれたまま。小売の商店や一部のコンビニが在庫を吐き出すだけで、大型スーパーはすべて店を閉めた。やむなく埼玉県熊谷市の実家に避難することにした。ここで大震災の全体像が、ようやく把握できた。水戸藩の藩校・弘道館の損壊、岡倉天心の六角堂流失というショッキングなニュースが流れる。特に後者は、茨城大学の所蔵する文化遺産でもあり、衝撃的だった。

笠間市の自宅に戻ったのは、13日の夜である。14日になるとライフラインが復旧しはじめ、電気が通じ、断水を繰り返しながらも水道が使えるようになった。しかし水戸市周辺の鉄道は全線不通で、しかもガソリンが届かず、中小のスタンドは店を閉め、大きなスタンドには長蛇の列。1時間待っても給油できない状態が、この後もしばらく続く。

震災以後、大学校舎には短時間しか留まることが許されない規制が続いていたため、自宅待機を余儀なくされていたが、15日、自転車での登校を試みる。片道20キロを超える道のりである。大学まであと一歩のところまで、「東海村の原発でも爆発」のチェーンメールが流れた。周りを見回すと、東に向かう自動車が消えたような気がした。慌ててすぐに引き返し、部分営業を始めた途中のスーパーに駆け込み、待機するうちに、これが偽情報だということが判明、この日は自宅に戻ることにした。翌16日、今度はバスでの登校を試みる。運行時刻を確認し、バス停で待つが、バスが来ない。反対方向に進むバスの運転手が、水戸行きのバスは、ガソリンスタンド渋滞に巻き込まれ、途中で立ち往生していることを教えてくれた。この日も登校は断念。結局、17日になって、再び自転車に乗って、ようやく登校することができた。

人文棟の建物内は、大きな損壊はなかったが、個々の研究室内部は何処も物が散乱しているようだ。図書館の書棚からは大半の書籍が落下し、再開のめどが立たない。県北の日立市にある工学部の施設が、大きな被害を受けているという。日立キャンパスのサーバーもダウンし、地震以来、公式メールが使えず、大学から教職員への連絡が取れない状態が続く。

23日になると、中止された卒業式にかわって、学位記伝達式が行われた。私は自転車で登校。卒業生の参加は40パーセントほどだろうか。27日からの週に入ると、ようやくガソリン事情が好転し始め、スタンド行列も次第に短くなった。スーパーの棚も商品でおおむね埋まるようになってきた。4月31日には常磐線が勝田まで復旧し、屋根のブルーシートは目立つものの、水戸市周辺は、3月末の段階で次第に平静を取り戻しつつある。塀や壁、屋根瓦を修復する職人の姿も、そこそこ見かけられるようになった。

## 2、文化財・歴史資料の被災と救済をめぐる動き

3月20日の茨城新聞朝刊、23日の朝日新聞朝刊が、県内文化財の被災状況を集約した記事を掲載した。弘道館・六角堂をはじめ、真壁の伝統的建造物群・鹿島神宮本殿など、建造物を中心とする多くの国指定文化財が被災している。県や市町村の指定文化財の中にも、被災した物件が相当数あるようであり、県や市町村教育委員会の対応は、こうした指定物件を中心に進められている。また博物館・資料館でも、収蔵資料の手当てで手いっぱいの状態だという。阪神淡路大震災やその後たびたび起こった災害の経緯からみても、やはり未指定の歴史資料への緊急的対応は、地域の研究者が協同して動くしかない。

個人的には、事態を正確に認識情報を収集したいが、燃料事情により、当初は、自宅のある笠間市周辺の自転車で回れる範囲を動くことにした。道路のあちこちに亀裂が走る。市内では笠間城下の被害が際立つ。道路があちこち陥没し、老朽家屋の損壊や屋根瓦の崩落が目立つ。ただし全壊の家屋等はないようだ。笠間稲荷の摂社の鳥居が崩壊し、稲荷美術館の屋根瓦は割れて浮き上がっている。老舗の酒蔵が損壊。大洲天神社の鳥居が倒れ、拝殿が傾き、石垣の石が所々飛び出していた。おそらくこうした身近な文化財の確認行動は、県内研究者が個人単位で行っているはずであるので、その集約の必要性を感じた。

電話やパソコンを使った情報収集にも努め、こうした状況で打てる手段を模索した。資料救済について、県内でどこからも手が上がらない状況を踏まえ、時代や専門からいえば必ずしも適当とは思われないが、私と院生・OBで組織する「茨城大学中世史研究会」が窓口となって、被災地に資料救済についての情報発信することになった。歴史資料ネットワークのチラシを編集しなおした、被災地の歴史資料の保存を呼びかけるチラシ「東北・関東大震災被災地の被災した歴史資料についてお願い」(巻末「参考資料」参照)を作り、現在、茨城県教育委員会文化課、市町村教育委員会、県内の研究者を通じて、被災地域に届くよう、手配してもらった。動き始めて間もなく、近世史料が専門の筑波大学の白井哲哉さんの協力を得て、救済・調査に向けての助言を得た。現地からも、少しずつ反響が寄せられている。

たとえば茨城大学でも、「震災調査計画」が練られ、学部や分野を横断した調査チームが発足したが、今後、こうした被災地で動いている団体と連携し、実態把握と救済活動の実質化に務める必要があるだろう。茨城県内には、時代や分野を超えて地域史に関心をもつ研究者が結集できる組織がないため、情報の集約や発信に大きな支障となった。今後、東北地方での歴史資料の救出に、隣接する県の研究者として協力する必要も出てくるかもしれない。こうした現状を、すぐに変えることはできないが、地域の研究者を横断するネットワークの必要を強く感じている。

### 3. 被災地の状況

震災直後、テレビ・新聞の報道は、激甚な被害を受けた東北地方のニュースが中心であり、茨城県内の状況について得られる情報には大きな限界があった。その後、県内被災地域の状況も少しずつ報じられるようになり、県北部における津波、鹿行地域における液状化現象などが、特に顕著な被害であることがわかってきた。以下、実見に従い、その概況を、歴史資料の被災という観点に留意しつつ、まとめておく。

#### (1) 県北地域

北茨城市の近世以来の平潟港が、大きな津波被害を受けた。未確認ながら、周知の古文書の流失も伝えられている。漁港から続く東町方面の沿海部に、家屋半壊・前会等の甚大な被害。ただし陸前浜海道から港に至る道沿いの町場は、瓦の崩落や壁の亀裂、石塀の倒壊といった地震被害にとどまったようだ。

同市内最大の天津漁港は、津波による壊滅的被害を受けている。漁協など、漁港にかかわる施設がすべて大きく損壊。漁船の多くが転覆し、打ち上げられている。大量の定置網が陸地に散乱している。東西の主要道「塙大津港線」沿いの被災は激甚で、多くの家屋が全壊・半壊。ただしその奥に展開する寺社や主要集落まで津波は到達していないようにみえる。漁業資料館「よう・そろー」も大きな津波被害を受けている。市場は巨大な瓦礫置場となり、その中には襖等の家財もみられた。同市磯原海岸も、海岸線を走る国道6号を津波が超えた。家屋の一部損壊が目立つ。

日立市河原子港は、海水浴場に沿った民宿などに津波被害の痕が確認される。久慈漁港にも被害あった。ここから日立港にかけて、津波が国道245号を超え、沿道家屋・商店が被災している。

東海村村松あたりの砂丘地帯では、液状化で道路が激しく陥没・隆起し、テニスコートが波打つ。村松大神宮の石造大鳥居が倒壊し、新川の川岸がえぐられるように崩落している。ひたちなか市磯崎漁港(阿字ヶ浦)は、砂丘から漁港に至る民宿・ホテルに被害。平磯海岸では津波は海岸線の道を超えていない。那珂湊の埋立地の市場には、大きな被害が報じられたが、すでに復旧が進んでいる。市場裏の道沿いまで、浸水の痕があるが、それより奥、すなわち中世以来の那珂湊の町場内に津波が及んだ形跡はない。

大洗町の大洗港は、役場を超えて沿海低地部に展開する商業・港湾施設、公共施設などに大きな津波被害がでた。このあたりは近代の造成地である。ただしもう一段高台に展開する旧集落に津波は及んでいない。街中の古い酒蔵も、大きな損傷は受けていない。高台にある神社は、瓦が落ち、石段がゆがみ、石燈籠が倒壊するなどの被害を、一部に確認した。市街地の南西を走る「長岡大洗線」は、かつて松波勘十郎が開削しようとした勘十堀を埋めて造った道路だが、沿道で陥没被害があった。店や家屋が道に向かって傾き、舗装が敗れ縁石が陥没している。100mほど東の花池寺では石垣が崩れ、墓石が多く倒壊した。

## (2) 鹿行地域

沿海部を走る国道 51 号線を、北から鹿島市に入ればしばらく南下すると、海側の集落の電柱が連続して傾いている場所が何箇所もみえる。国道 124 号沿いの神栖市長柄あたりでは、電柱や、スーパー・レストランなどの看板が、100 メートル以上にわたってすべて大きく傾く。陥没した家屋・商店も多く、車道も歩道も激しく陥没と隆起を繰り返し、甚大な液状化現象の被害を受けている。このあたりは北浦と鹿島港がもっとも近づく埋立地。ここからほど近い神栖市奥野谷の山本家住宅は、漁師屋敷で国指定の建造物。津波を受け、土壁が一部損壊するなど、被害が確認できる。打ち寄せられた漂流物が辺りに残っている。鹿島港に侵入した津波があふれ、神之池との間に挟まれたこのあたりに押し寄せたものと思われる。海浜運動公園から日川浜海水浴場方面の沿海地域も確認したが、津波が及んだ形跡はなかった。

潮来市日の出地区は、遠目に見ても、電柱が傾きひどい状態だった。このあたりは内浪逆浦の埋立地。潮来市内の国道 51 号・主要地方道 5 号沿いは、比較的被害は少ない。対照的に一筋常陸利根川沿いのあやめ園のある水郷地域は、電柱が傾き、道路にも激しく亀裂が走る。

茨城町海老沢の郵便局前の歩道は液状化現象でマンホールが 50～60 センチくらい飛び出している。地方道 45 号線、続く県道 114 号沿いは、道路に隆起や沈降が目立つ。行方市下吉影でも液状化現象により、水戸神栖線(地方主要道 50 号)の歩道・車道のマンホールが連続して 30～100 センチほど飛び出す。道路の陥没・隆起も甚だしい。

## 4. 総括（個人的整理）

現状において、県内の歴史資料が深刻な危機を迎えていることは間違いない。情報不足や燃料事情の悪化、福島での原発事故の影響もあり、震災当初、身動きができない状態に追い込まれていたこともあるが、初動において何か手を打てなかったか、という思いは消えない。

津波は、県北の港町において甚だしい被害をもたらしているが、旧集落に被災が少ないという共通点がみられる。例えば大洗や那珂湊では、新たに埋め立てて造った港の市場や造成地が津波に襲われ、神社や旧家が所在する旧集落は地震による家屋の一部損壊などにとどまったように見える。平潟では、神社が港を囲む高台にあり、町屋が並ぶ近世以来のメインストリートは、標高的には被災家屋が並ぶ地域とあまり変わらないように見えるが、津波が及んではない。大津漁港は、現代に大規模造成したものであり、そのすぐ内側、もっとも海側の港に沿った東西道「塙大津港線」沿いの「長屋」を中心とする集落が激しい津波被害を受けた。しかしよく観察すると、旧家や神社は、その一段高い土地に東西に並ぶように形成されており、被害は比較的軽かったのではないかと。

県南では、神栖市の山本家住宅が津波で被災している。これは、鹿島港に入りこんだ津波があふれ、旧集落の中心を襲ったものである。鹿島港は、神之池を潰して造った人工の港湾であり、山本家のある奥野谷の集落が津波被害を受けることは、本来はありえない。これは、現代の大規模な地形改変をもたらした「人災」である。

わずかながら古文書の流失が報告され、一概には言えないが、歴史の淘汰を受けつつ形成されてきた旧集落は、津波を受けにくい土地を選んで形成されていることに気付かせられる。そうした土地の占有状況の中に、村の階層・階級関係も織り込まれているのだろう。被災地から平川新さんが発信した『宮城資料ネットニュース』98 号で、奥州街道の宿が、慶長大地震を踏まえて計画的に形成されたのではないかとという所論を展開しているが、茨城の漁村内においても、そうした実体験の蓄積が、集落のあり方を規定していたのかもしれない。

詳しい被害の実態は、これから次第に明らかになるだろうが、こうした歴史の知恵を踏まえて形成された旧集落内に所在する旧家や神社に所蔵される歴史資料の被害が少ないことを祈りたい。資料の救出と同時に、こうした歴史的に形成された旧集落と被災地域との関係性を考えていくことが必要である。ハザードマップ上に、その土地が受けた歴史的経験を、情報としてきちんと示すことが、今後、重要になるはずである。

なお本稿はあくまで、茨城県の被災の実情を、歴史資料の救済という観点からまとめ、全国の歴史研究者に発信しようとする「速報」である。情報も大半が、私自身の体験や個人的な実地検分に基づいている。今後、より詳細かつ正確な被災状況が明らかになれば不要となるレポートであることを、御了解いただきたい。

(2011 年 4 月 1 日執筆、4 月 8 日一部改稿)

※ 茨城大学の高橋修氏より茨城の状況につきレポートいただきましたので転載いたします。

## 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）による 被災歴史資料保全活動の現状と支援募金のお願い

2011年4月11日

歴史資料ネットワーク

（略称：史料ネット）

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）とそれにとまなう津波により、岩手・宮城・福島・茨城など多くの地域で甚大な被害が発生しました。不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆さまにお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆さまに対し、深くお悔やみを申し上げます。

今回の地震は、被災地が遠隔地であり、また被害が広範囲に及び、現在もなお余震が続いています。私たちは、こうした状況下で、どのようなタイミングで活動に着手し、どのような支援を行うべきかについて、地震発生直後から協議してきました。現在、各地と連絡をとり、情報収集に努めていますが、被災を乗り越え、宮城歴史資料保全ネットワークは事務局を移転して活動を再開、また、ふくしま歴史資料保存ネットワークや山形文化遺産防災ネットワークも保全活動に向けて準備を進めています。現地からの情報では、内陸部には「壊滅的」とまでは言えないものの大きな被害をうけた地域も多くあり、そうした地域では家屋の解体などにとまなう歴史資料の散逸が懸念されます。大規模災害時には、家や蔵、公民館などに保管されていた歴史資料が、被災地の混乱の中で廃棄あるいは売却され、盗難にあう場合もあります。一方、水につかり泥まみれになった史料の廃棄も予想されますが、過去の水損史料保全の経験から、これらも修復できる場合が少なくないことがわかっています。

以上をふまえ、史料ネットでは、現在何ができるかを考え、まずは史料保全活動支援のための募金を広く呼びかけ、順次、現地組織へ送金することにし、すでに宮城ネットに対して、合計65万円の送金を行いました。震災による滅失を免れ、今後、地域社会の再建にも直接・間接に重要な役割を果たすであろう歴史資料が、復興過程で散逸し、それによって家族や地域の大切な記憶が失われる恐れがあります。そうした事態を防ぐために、各地の活動をバックアップしていく方針です。

各地の被災状況や史料保全に関する情報は、史料ネットのブログに掲載し、日々更新していますので、ぜひご覧ください。また、今回の募金の使途や活動報告については、後日、別の紙面などを通じて、協力者の皆さまにご報告したいと考えています。

被災地における歴史資料の救出・保全活動の必要性をご理解いただき、長期化が予想される活動の継続的展開のため募金をお寄せくださいますよう、よろしくお願いいたします。

### 東日本大震災による被災歴史資料保全活動支援募金（郵便振替）

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

## 2011 年東日本大震災被災史料救出活動支援募金ご協力の御礼

### 支援者一覧（敬称略・順不同・3月14日以降、4月7日現在）

加来良行、前田結城、松下佐知子、兒玉州平、戸田靖久、島田明日香、小川弘和、佐々木拓哉、辻浩和、千葉功、岡本一也、青柳周一、木場貴俊、マスダユキオ、染井千佳、西村慎太郎、本多隆成、浜岡鷹行、大成経凡（愛媛資料ネット）、橋村淳一、菅真城、小島道裕、佐藤正三郎、山本さざり、四方未央、吉田伸之・ゆり子、松沢裕作、須原祥二、東條さやか、造酒豊、一瀬八重子、庖丁道明、和泉敦子、中津川敬朗、櫛木謙周、岩井忠熊、中村哲、神谷修治、天野忠幸、古藤真平、高橋修、菅原征子、亀田俊和、前田一郎、水本有香、藤田明良、近藤浩二、白石健二、田中せつ子、安国良一、鈴江英一、太田富康、今井秀和、前澤正之、八木滋、高木博志、宇佐美ミサ子、茨木一成、上田長生、藺田香融、細谷亨、町田哲、西宮秀紀、谷山正道、仁木宏・京楽真帆子、安江明夫、蔵持重裕、柴裕之、川戸貴史、荒井秀規、村井早苗、大日方克己、俣野好治、三宅唯美、寺嶋一根、樺井義孝、鈴木良、平瀬直樹、小林隆、瀬畑源、三好千春、遠藤美保子、鈴木幸夫、佐藤雄基、竹永三男、木坂順一郎、上杉和彦、井上寛司、前田禎彦、西岡芳文、大橋幸泰、妻鹿淳子、辻豊治、後藤幹彦、横山篤夫、木村茂光、竹森友子、浅野美和子、小川由美子、堀五郎、荒木和憲、塩川隆文、福田英一、櫻澤誠、米澤洋子、中村順昭、勝村誠、大井教寛、衣川仁、青木哲夫、野村美紀、西澤康、坂口勉、辻川敦、渡辺英夫、義江明子、三村昌司、杉山茂、ミツゾノイサム、松本良太、海老澤衷、稲葉伸道、小泉洋、荻慎一郎、山名暢、前田徹、森安彦、古尾谷知浩、日沖和子、河村昭一、岡嶋大峰、河野通明、山内譲、川合康、福島幸宏、加藤晃、寺内浩、石井順子、佐藤靖子、野村育世、河西秀哉、久保田和彦、深見貴成、鈴木正幸、村井良介、坂江涉、末田真樹子、木原博幸、片山早紀、田中大輔、畔上直樹、高江洲昌哉、小野塚充巨、高橋敏子、大浦和也、高岡裕之、梶野妙子、和田順子、西沢淳男、藤原立子、木部和昭、神田千里、奥山哲夫、名倉佳之、久志本鉄也、有光友學、増田俊信、丸山信二、西村晃、小林とみ子、村瀬隆彦（掛川西高校社会科教員有志）、武田和也、塚田孝、桐野作人、廣川和花、廣田浩治、渡辺尚志、中山良子、島田克彦、伊藤康宏、齋藤慎一、小宮木代良、豊田裕章、イノウエシュウヘイ、大島佐知子、弓倉弘年、山下香織、笥真理子、新名一仁、正岡義朗、小林一博、藤井譲治、栗山圭子、青木然、田中はるみ、倉地克直、関根淳、吉岡孝、奥村徹也、土田宏成、福田桂三、細井浩志、山中五朗、高島千代・田崎公司、岡村正純、直木孝次郎、海老沼真治、松田之利、藤本清二郎、松本和明、齋藤紘子、松原誠司、久保田宏、関学漆畑元、筒井裕美子、添田仁、長山直治、篠原孝明、松岡弘之・室山京子、関周一、藤田琢司、小和田哲男、武居順二、広瀬玲子、平山方茂、船勢肇、鬼嶋淳、桜井英治、中山富広、幡鎌一弘、田中浩司、三輪泰史、吉田賢司、吉田晶、赤澤史朗、松田暁子、川元奈々、坂本勝成、猪苧由紀、吉岡義介、中野渡俊治、井戸幸一、大石泰史・磯川いづみ、高木叙子、松本政春、岩倉哲夫、溝口睦子、下村周太郎、片野真佐子、藤木久志、西坂靖、株式会社パレット、株式会社溪水社、安井三吉、山田涉、母利美和、山本秀夫、大野瑞男、吉良芳恵、大塚活美、藤井稔、沼田武彦、米田俊彦、川内淳史

※ 岩田書院・岩田博氏の「歴史系の専門書の出版社としては、現地での史料保存に役立ててほしい」とのご厚意により、2011 年中の岩田書院の学会・研究会での売上金の1割を、被災史料保全への支援募金としてご寄付いただけることになりました。

史料ネット NEWS LETTER No.65 2011 年 4 月 11 日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内

TEL&FAX:078-803-5565（開室時間 平日の午後1時～5時）

e-mails-net@lit.kobe-u.ac.jp

被災史料救出活動のようす・詳細は日々ブログに更新しています。

[http://blogs.yahoo.co.jp/siryo\\_net](http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net)